

PRIMERGY RX4770 M7 ご使用上の留意・注意事項

PRIMERGY RX4770 M7 に関して、留意・注意事項がございます。
製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

本文中の OS 名称は、次のように略して表記します。

OS 名	略称	
Windows Server® 2022	Windows2022	Windows
Windows Server® 2019	Windows2019	Windows
Red Hat Enterprise Linux® 9.0	RHEL9.0	RHEL
Red Hat Enterprise Linux® 8.6	RHEL8.6	RHEL
SUSE® Linux Enterprise Server 15 Service Pack 4	SLES15SP4	SLES
VMware vSphere® ESXi 8.0	VMWare 8	VMWare
VMware vSphere® ESXi 7.0 Update3	VMWare 7.0	VMWare

【制限事項】

1. 【修正済】 BIOS の Application Profile 機能について

BIOS の Application Profile 機能はご利用いただけません。

BIOS メニューにある Application Profile の設定に関わらず、全て"Custom"(デフォルト設定)と同じ効果になります。

※本制限は、BIOS 2.4.0 以降で解除されています。

2. 【修正済】 ID ボタン長押しによる iRMC 再起動時の OS ハングアップについて

OS 稼働中に ID ボタン長押し(5 秒以上)による iRMC の再起動を行うと OS がハングアップする可能性があります。

これは ServerView Agentless Services がインストールされている環境で発生する可能性があります。OS 稼働中に iRMC 再起動を実施したい場合は、Web インターフェースまたは Redfish から実施してください。

また、OS がハングアップした場合は、以下のいずれかの方法を実施してください。

- (1) 電源ボタンを長押し(5 秒以上)して強制的に電源断する。

(2) iRMC の機能で強制的に電源断する。

1. iRMC Web インターフェースに管理者権限を持ったユーザでログインします。
2. 右上の電源ボタンより、「即時電源オフ」を押します。

その後、iRMC の Web インターフェースまたは装置の電源ボタンで電源を投入し OS を起動してください。

※ 本制限は、iRMC ファームウェア 2.36S 以降で解除されています。

3. 【修正済】 iRMC IPMI over USB 設定について

LAN over USB 使用中にホスト OS を再起動すると、下記のエラーメッセージが SEL に記録されます。

'USB Lan': Host <-> BMC interface error

ホスト再起動に伴う間欠的なエラー通知であるため、機能自体のエラーではなく継続して使用できます。

※ 本制限は、iRMC ファームウェア 2.36S 以降で解除されています。

4. 【修正済】 PDUAL CP100 搭載時の SEL について

デュアル M.2 コントローラカード(PDUAL CP100) [PY-DMCP24/PYBDMCP24L]搭載時、ホスト起動時にまれに I2C Bus Block の SEL が記録されます

'I2C7': I2C Bus is blocked

間欠的なエラーであり機能に影響はありませんので、そのまま使用いただけます。

※ 本制限は、iRMC ファームウェア 2.36S 以降で解除されています。

5. 【修正済】 eLCM による iRMC の Offline Update について

eLCM による iRMC ファームウェアのオフラインアップデートはご利用できません。iRMC のアップデートは、iRMC WebUI にてファイルまたは TFTP サーバによるアップデートまたは、eLCM のオンラインアップデートをご利用ください。

※ 本制限は、iRMC ファームウェア 2.36S 以降で解除されています。

【留意事項】

6. BIOS が自動で生成するデバイスの Boot Option の削除について

起動可能なデバイスのうち、BIOS が起動時に自動的に検出するデバイスは削除できません。BIOS が検出するデバイスは、HDD・SSD などのストレージや、PXE・iSCSI・HTTP などのネットワークが含まれます。

例 1: Windows がインストールされたストレージが存在する場合

ブート順位 1: 「例: Windows Boot Manager」⇒削除できます。

ブート順位 2: 「例: <ストレージの型番など>」⇒削除できません

また、以下のような構成の場合、BIOS がブート順位 2 のデバイスを POST 中に検出できなくなった場合、ブート順位 3 以降のデバイスからの起動を試みます。回避策として、起動させる必要のないデバイスが存在する場合、BIOS が起動可能デバイスとして検出させなくするために、以下の設定変更を実施してください。

例 2: Windows がインストールされたストレージと PXE Boot 可能なネットワークポートが存在する場合

ブート順位 1: 「例: Windows Boot Manager」

ブート順位 2: 「例: <ストレージ A (Windows インストール済み)>」

ブート順位 3: 「例: <IPv4 PXE ネットワークポートの MAC アドレス>」

設定変更内容:

SATA HDD/SSD の場合: 「SATA Configuration」メニューの「SATA Controller」を「Disabled」に設定してください。

M.2 SATA SSD の場合: 「SATA Configuration」メニューの「SSATA Controller」を「Disabled」に設定してください。

ネットワークの場合: 「UEFI Network Stack Configuration」メニューの「Network stack」を「Disabled」にしてください。

7. Dual Boot 設定について

1 つの Disk に複数の OS をインストールする Dual Boot 設定が出来ません。Dual Boot を行う場合には、2 つ以上の Disk を搭載してください。

8. 使用可能な DIMM の容量について

1CPU あたり DIMM を 6 枚搭載している場合、使用可能なメモリ容量は搭載している DIMM の全容量より 1GB 少なくなります。

9. iRMC 初期パスワードについて

System ID カードに記載されている iRMC 初期パスワードをご確認の上、iRMC にログインしてください。ログイン後、新しいパスワードの設定が必要になるため UI の案内に従ってパスワードの設定をお願いします。また、変更後のパスワードがわからなくなった場合、工場出荷時設定に戻す必要があります。その場合、再度初期パスワードでのログインが必要になるため、大切に保管ください。

工場出荷時設定に戻したい場合は、BIOS Setup メニューにて、Server Management->Load iRMC Default Values を yes にして Save&Exit を実施してください。

10. iRMC REST API による HTTP 通信について

iRMC の REST API 発行で HTTP は使用できません。

Red Hat OpenStack Platform のデフォルト設定では、iRMC の REST API に対し HTTPS 通信を行います。iRMC S6 は HTTP による iRMC の REST API をサポートしていないため、Red Hat OpenStack Platform ではデフォルトの HTTPS を使用してください。

11. iRMC IPMI over LAN 設定について

iRMC の IPMI over LAN は、デフォルト設定で無効になっています。

Red Hat OpenStack Platform 16.2 および 17 では IPMI over LAN を使用するため、設定を有効化する必要があります。

詳細は『iRMC S6 - Web インターフェース』取扱説明書を参照して設定してください。

12. iRMC Web インターフェース上の LAN カード Link status について

下記のカードは、コントローラが MCTP 機能をサポートしていないため、iRMC でそれらカードの Link 状態 (up/down)、Link speed などが表示されません。

名称	型名	備考
ポート拡張オプション (1000BASE-T×4)	PY-LA284U, PYBLA284U,	Broadcom N41T OCPv3 相当品
Quad port LAN カード (1000BASE-T)	PY-LA284, PYBLA284, PYBLA284L	Broadcom BCM5719-4P 相当品

13. 共通操作パネル(COP)の HDD/SSD ランプについて

共通操作パネル(COP)の HDD/SSD ランプはディスク(HDD/SSD/PCIe SSD/M.2)のアイドル時は消灯しますが、M.2 Flash モジュール(NVMe 接続)を搭載している場合は M.2 Flash モジュール(NVMe 接続)のアイドル時に点灯(緑色)します。※M.2 Flash モジュール(NVMe 接続)がデータアクセス中は点滅(緑色)しますが、M.2 Flash モジュール(NVMe 接続)がアイドルかつ他のディスクがデータアクセス中の場合は点灯(緑色)します。

14. Beep 音の機能のサポートについて

iRMC がエラー検出時に Beep 音を鳴らす機能は使用できません。

— 以上 —